




旭川小学校きらめき学習のあゆみ

5月	同じ旭川について調べる北海道旭川市立台場小学校、旭川の下流に位置する明徳小学校、保戸野小学校のこどもたちとの交流開始
	<b>きらめき旭川キッズ結成!</b> こどもエコクラブ登録(4年生96名)、秋田県環境教育推進校指定 植物コース、水コース、魚コース、鳥コースの4グループによる旭川の自然について調査を開始
6月	河川の様子(水質、川の生き物等)について学習(国土交通省秋田河川国道事務所) 旭川の歴史(名前の由来、伝説など)について学習(秋田県立博物館)
7・8月	<b>それぞれのコースのゲストティーチャーとフィールド調査</b> 植物コース 鳥コース 魚コース 水コース 
10月	<b>旭川エコ&amp;グリーンウォーク(建都400年イベント秋田市主催)に参加</b> フィールド調査などで調べたことを展示発表 
	まとめ学習「旭川のすてきをまもる人たち」 旭川清流友の会、秋田青年会議所、秋田市環境企画課
	<b>学習発表会</b> 
11月	旭川クリーンアップ ポスター、壁新聞、ホームページを作成
12月	こどもエコクラブ全国フェスティバル「壁新聞コンテスト」へ応募 中央公民館、地域の銀行、公民館、郵便局などでポスター、壁新聞などを展示
1月	こどもエコクラブ全国フェスティバル(仙台市)招待クラブに決定

見つけよう  
広げよう

マイリバー  
My River ASAHIKAWA  
旭川



**藤倉水源地**は、秋田市内への飲料水、防火用水供給のため、明治36年(1903)に建設が開始され、明治40年に一部給水が始まり、明治44年に全施設が完成しました。以来、市民の水がめとして、70年近くも秋田市民に清涼な飲料水を供給し続けました。しかし、その後の拡張工事で、給水のすべてが雄物川からまかなわれるようになり、昭和48年に藤倉ダムは取水を停止しました。平成5年8月17日、国の建造物の重要文化財「近代化遺産」に指定されました。



旭川は、秋田市の中心部を流れ、私たちの暮らしや文化を育んできた、秋田市を代表する清流です。

旭川小学校4年生のこどもたちは、総合的な学習の時間の中で旭川の自然の魅力や尊さについて学びました。学習を通してこどもたちから「旭川の魅力について多くの方に知ってもらいたい…」という想いが自然に生まれてきました。

このマップは、旭川に対する想いや自然の魅力についてこどもたちがみずからまとめたものをもとに作りました。

見つけよう 広げよう マイリバー旭川 平成16年3月発行

編集・発行  
秋田市環境部環境企画課  
〒011-0904 秋田市寺内蛭根三丁目24番3号  
TEL.018-863-6632  
FAX.018-863-6630  
E-mail ro-evrc@city.akita.akita.jp  
URL http://www.city.akita.akita.jp/city/ev/rc

協力  
秋田市立旭川小学校 4年部  
〒010-0851 秋田市手形字オの浜63  
TEL.018-832-2862  
FAX.018-837-7918  
URL  
http://www.edu.city.akita.akita.jp/~ask-s/index.htm

この印刷物は無料配布です。印刷単価は1部94円(税抜)です。



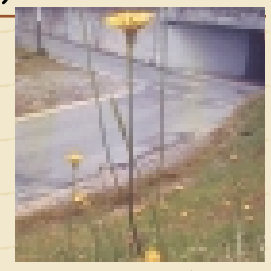
# 植物 コース

旭川地区・旭川マップ  
旭川の  
日本タンポポを  
まもれ!

## PLANT・COURSE

### 下流(添川河川公園)

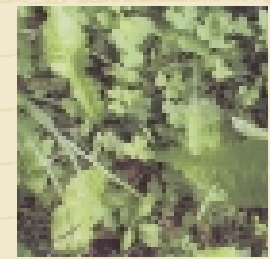
まわりに家が多く、川幅が広く場所によってはコンクリートの堤防があります。川原にはヤナギやヨシの仲間がたくさん生えています。一方、堤防にはブタクサ(アメリカ原産)やシロツメクサ(ヨーロッパ原産)、セイタカアワダチソウ(アメリカ原産)などの帰化植物がたくさんあります。



ブタクサ

### 日本タンポポ(補陀寺)

日本に昔からあった日本タンポポ(エゾタンポポ)がたくさん生えています。日本タンポポは春しか花を咲かせないので、四季を通して咲く西洋タンポポに追いやられています。しかし、ここでは農家や、日本タンポポをまもる人たちのおかげで、日本タンポポが守られています。



### 中流(藤倉)

オニグルミは川の近くに生えます。これは実が川の流れてに乗って旅をし、さらにリスなどの小動物が川原に近いところに運んで子孫を増やすからです。旭川では中流に多く見ることができます。



### 上流(仁別国民の森)

川原がほとんどなくなり、川の兩岸に森がせまっています。帰化植物がほとんど見られず、ミズナラやブナ、天然秋田杉、シダなどたくさんの種類が見られます。



ミズナラ

コナラ

カシワ



新藤田橋

添川橋

添川河川公園

旭川小学校

藤倉橋

藤倉水源地

堂の下橋

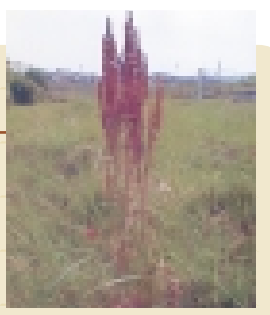
旭川ダム

リゾート公園・植物園

仁別国民の森

### 宝物発見

ノダイオウという大きくぶきみな植物を見つけました。これは大変珍しい植物で、絶滅が心配されているそうです。



### 宝物発見

補陀寺のまわりの小川ではホタルが見ることができます。ここではホタルの幼虫のえさになるカワニナをたくさん見つけました。カワニナは小川に落ちてくる葉を食べるので、小川の上には木がたくさんありました。ホタルをまもるためには、周りの自然も大切にしていける必要があります。



### ゲストティーチャーからひとこと 自然観察指導員 三浦勉先生

自然に対する思いやりの気持ちは、自然に関心を持ち、感じ、様々な変化に気づくところから芽生えます。皆さんは旭川の自然に関心を持ち、植物をテーマに研究をしました。人々の生活と日本タンポポとのつながりや、植物と野生動物や川の流れとの不思議な関係などについても調べました。そして、観察や体験を通じてわかったり感じたことを、みんなで考えを出し合い作品にまとめて発表しました。

自然に対する自分たちの気持ちを発表し、人々に伝えたり広めていくことは、自然を大切にする人々を増やすことにつながります。皆さんにはこれからも、地域の自然を大切にする気持ちを持ち続けていただきたいと思います。それが、自然環境を守る大きな活動に結びつく、大切なことだと思います。





# 鳥コース

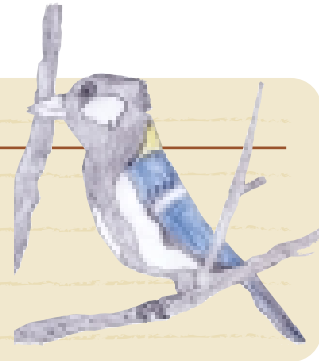
旭川地区・旭川マップ  
鳥の楽園  
旭川

## BIRD・COURSE

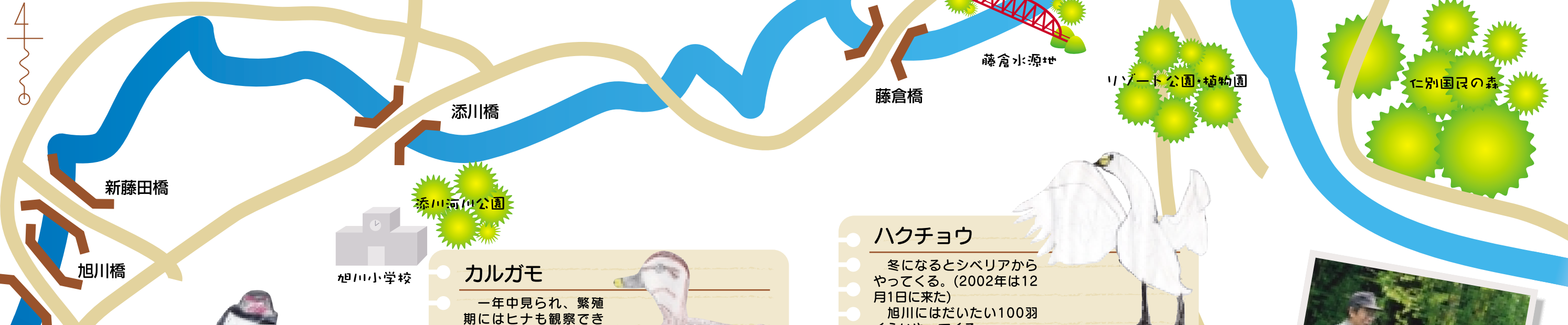
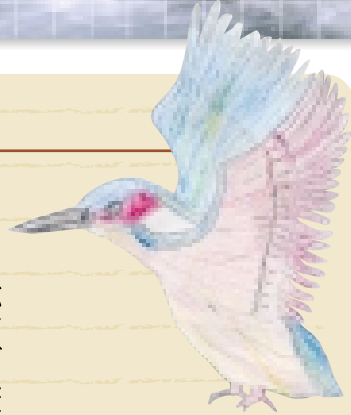
**ゴイサギ**  
新藤田橋と旭川橋の間で見つけた。この鳥は夕方から夜に活動して、魚などをとります。全長は57cmくらい。



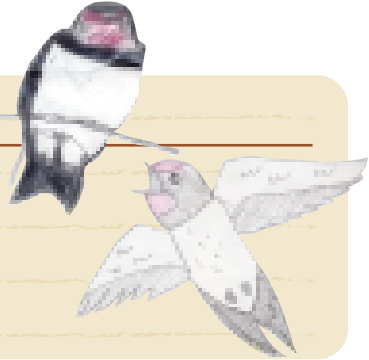
**シジユウカラ**  
公園や街の緑地帯に住み、千秋公園でもよく見かける。旭川ではヤナギなどによくきます。虫や木の実を食べ、全長は14cmくらい。



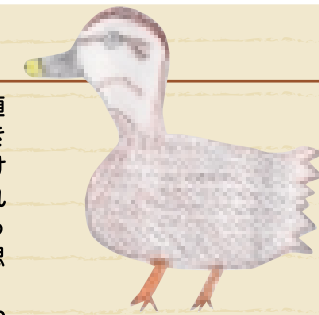
**カワセミ**  
夏休みの7月31日、旭川橋で飛んでいるところを見つけた。けい流のきれいな川に住み、その体はコバルトブルーの色をしている。小魚やエビなどを食べ、くちばしは長くするどい。ねん土質の切り立った土手みたいなどころにあなを掘って巣をつくり子育てする。



**ツバメ**  
旭川橋の下にたくさんいた。飛んだまま水を飲み、虫は食べるが魚は食べない。旭川の流域にはイワツバメとツバメがいる。



**カルガモ**  
一年中見られ、繁殖期にはヒナも観察できます。親鳥は少しだけよごれています。それはタマゴを守ってじっとしているからだと思います。おもに植物のタネや水草を食べ、たまに、魚や虫などを食べることもあります。くちばしは黒く先が黄色いのが特ちょうです。



**ハクチョウ**  
冬になるとシベリアからやってくる。(2002年は12月1日に来た) 旭川にはだいたい100羽くらいやってくる。コハクチョウよりオオハクチョウが多い。



**私たちにできること**  
秋田市では239種類(秋田市野鳥マップより)の鳥が見つかって、旭川流域には70種類(地域野鳥の会会員のデータより)の野鳥が確認されている。旭川にも鳥を守っている人がいて、主にエサをあげたりごみを拾ったりしている。それは鳥がごみをエサとまちがって食べて、ケガをするおそれがあるからだ。自分たちでも鳥を守ることができる。それは、巣にちかよらないことや、鳥を見るとき目立たない服で行くことだ。

**ゲストティーチャーからひとこと** 日本野鳥の会秋田県支部 竹谷克巳先生  
みんなでよく観察し、よく調べました。すばらしいできばえです。これからもときどきでいいから、旭川へ出かけていろいろな鳥を見つけてください。そのなかから自分の好きな鳥をえらんで、しずかに観察をつづけていくと、思いがけない場面にあえますよ。いつまでもたくさんの鳥が旭川にくるように、堤防や川の中をよごさないようにしましょう。(私たち、おとなも注意しなければいけません)

# 魚コース

旭川地区・旭川マップ  
旭川のトミヨをまもれ!

## FISH・COURSE

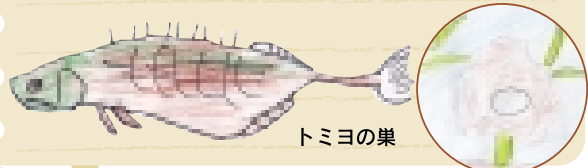
### ウキゴリ(8月1日：添川河川公園)

タラコくちびるみたいな口で黒と茶色のまざった色のはん点があります。



### 宝物発見 トミヨ

水草のあいだに、水草の根やどろなどで鳥の巣みたいな巣をつくる。だから水草のはえているところにしか住まないと思う。背びれに9本のトゲがあり、オスが巣を作り、そこにメスがタマゴを産む。ぜつめつしそうな魚です。



トミヨの巣

### アブラハヤ(8月1日：添川河川公園)

はだざわりがとてもぬるぬるしている小さい魚です。名前のゆらいはぬるぬるしているからです。



### メダカ(8月1日：添川河川公園)

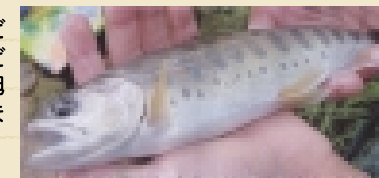
オスとメスが横にならび、オスが背びれと尻びれでメスをだくと産卵をはじめます。



### ヤマメ(9月9日：仁別国民の森)

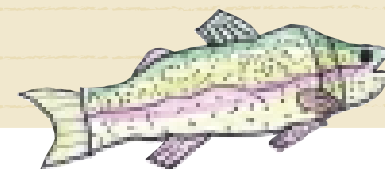
普通は流れが速く水がきれいな川で一生を終える魚ですが、中にはサケのように海で成長して生まれた川に戻ってくるものもいて、これをサクラマスと呼んでいます。

カワゲラなどの水生昆虫などを食べます。旭川の上流にいました。



### ニジマス(9月9日：仁別国民の森)

北アメリカ原産で、北海道から九州までの各地の湖・沼・海にいる。からだの模様がうす紅色で、旭川上流にもいる。



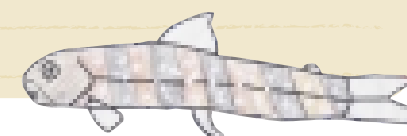
### ウグイ(8月1日：添川河川公園)

繁殖期には腹が赤くなります。流れがはやいところにすむ魚で、旭川中流にたくさんいます。



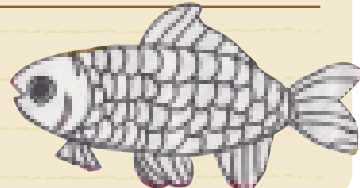
### イワナ(9月9日：仁別国民の森)

流れの速い水のきれいなところの倒木や岩かげにかくれて住んでいる。木から落ちてくる虫や流れのってくる水生昆虫などを食べる。



### コイ(8月1日：添川河川公園)

おなかをさわるとざらざらする。銀色と灰色をしている。



### カジカ(8月1日：添川河川公園)

岩の下に住んでいる。腹びれが2つに分かれているのが特長です。



### ゲストティーチャーからひとこと 秋田県水産振興センター 杉山秀樹先生

生徒たちとともに、川に入って魚とりをした。最初、生徒たちは川の岸寄りについて、こわごわと濡れないようにしていた。しかし、すぐにざぶざぶと水の中に入り、全身ぬれぬれみとなりていった。そして、できるだけ多くの数を、できるだけ多くの種類をとろうと必死で魚とりに夢中になっていった。

その時、旭川には子供を夢中にさせる何かがあることを実感した。その何かとは、言うまでもなくウグイ、アブラハヤ、トミヨ、カジカなどの魚たちである。そして今、これらの魚たちが生息しており、生徒たちが触れあうことができるということは、その魚たちが必要とする餌、隠れ場所、繁殖の場などが旭川にあるということである。何よりも、生徒たちが触れ

たものは、何万年という長い年月を経て形成されたものであり、地球と人間がもたらしてくれた遺産そのものである。

旭川というこの遺産を、遺産として実感し、これをまもり、次に引き継いでいけることができたら、同じ感動を次の生徒たちも享受することができるのだ。今回の学習が旭川の素晴らしさと価値を再認識させるものであり、我々の活動がその一助になったとすれば、この遺産を享受する一員としてこれに勝る喜びはない。逆に、この旭川の素晴らしさを改めて我々に教えてくれた生徒たちに感謝したい。



# 水

## コース

旭川地区・旭川マップ

きれいな  
旭川の水を  
まもれ!

# WATER・COURSE

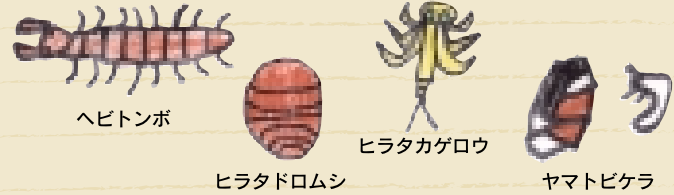
### 旭川をまもる下水道

川が汚くなるのは、川が水をきれいにする力(自浄作用)よりも多くの汚れがまわりから入ってくるからです。その汚れの原因は生活排水が多いということがわかりました。だから、しょうゆやマヨネーズをそのまま台所に流すと川の水が汚ってしまいます。マヨネーズ大さじ一杯を流し、魚がすめる水にもどすためには、風呂桶12杯分の水が必要になります。川をきれいにするためには、下水道につないできちんと処理をして流すことが大切だとわかりました。



### 新藤田橋: 7月3日(ややきれい)

川の周りにたくさん家があり、コンクリートの堤防があります。CODは2くらいで、ヤマトビケラやカワゲラなどきれいな所にすむ水生生物を見つけました。



### 藤倉: 7月30日夏休み親子 環境教室(きれい)

川の周りには、自然がたくさんありました。雨のため流れが早く、少しにごっていました。CODは2くらいで、ヘビトンボ やヤマトビケラなどきれいな所にすむ水生生物が思ったよりたくさんいました。



新藤田橋

添川橋

藤倉橋

堂の下橋

旭川ダム

藤倉水源地

リゾート公園・植物園

仁別国民の森

添川河川公園

旭川小学校

### 添川河川公園: 8月25日(きれい)

天気が悪く、川原での調査ができず、市の人々がもってきた水を調べました。河川公園のまわりは住宅地ですが、やや自然が残されています。CODは2~3くらいで、カワゲラなどきれいな所にすむものとセスジユスリカなどきたない所にすむものどちらもいましたが、きれいな所にすむ水生生物のほうが多くいました。

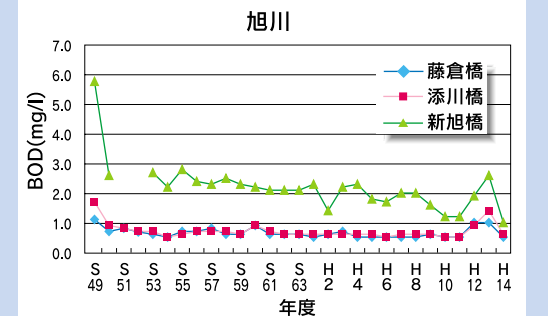


### 仁別国民の森: 9月9日(とてもきれい)

川の周りには、自然がたくさんありました。水は透明で川の中の石がたくさん見えました。CODは1~2くらいで、きれいな水に住むヘビトンボやカワゲラ、ヒラタカゲロウなどの水生生物がいました。これらの水生生物は他のところより体が大きく、バットの中で大ヘビトンボが大カワゲラを食べるのを見てびっくりしました。体が大きいのはまわりに自然がたくさんあるので、水に栄養がたくさんあるからだと思いました。



※COD(化学的酸素要求量)とBOD(生物的酸素要求量)どちらも水の汚れの程度を示します。数字が大きいほど汚れています。



### ゲストティーチャーからひとこと 秋田市環境企画課

水は、どこからくるのでしょうか?空から雨や雪になってふって、森の中にたくわえられ、そして川になり、海に流れ、これが蒸発して、空気の中にもどり……。こうやって、循環しながら、人間をふくめた地球上のすべての生命を育てています。下水道の整備が進んだことなどにより、今のところ旭川の水はきれいな状態にあります。旭川の水をもっときれいにしていくためには、天然のダムである森に目を向けたり、まちの中や川のまわりをきれいに保つなど、「水辺空間」を大事にしていく必要があります。

